

事が見えてきます。大事なことは、プログラムの結果ではなく、その過程です。彼らが理解していない状態でプログラムを進めたとしても、それは何の意味もありません。プログラムが遅れているのは確かですが、東ティモールの人々を巻き込んで、良いプログラムを一緒につくっていきたいです。

### \*ココナッツオイル生産支援プログラム\*

栄養改善プログラムとはまた別に、JOMAS－海外邦人宣教師活動援助後援会から支援して頂き、2015年11月から女性のココナッツオイル生産グループの支援をロスパロスで行っています。日本でも一時期ココナッツオイルが流行したと思いますが、現在もその流行は続いているのでしょうか？このプログラムは、地元の製品を他地域に広め、また、女性の自立を促すことが目的です。

今年独立から14年目となる東ティモール。独立当初と比較するとその成長は著しく、1人当たりの国民総所得は\$570(2004年)から\$3,620(2012年)と上昇しています。首都ディリでは、省庁等の政府機関やデパートなどで女性の働く姿を見るのが当たり前になってきています。でも、首都から車で約6時間かかるラウテン県に目を向けてみると、女性が就業している姿はあまり見られず、子どもの面倒を見ながら家庭菜園で野菜を収穫して販売している女性がほとんどです。

また、多くの家庭がインドネシア等から輸入した油を用いて調理を行っていますが、ココナッツの育つ地域に目を向けると香りも良く、栄養もあり、カロリーの低いココナッツオイルを使用して調理を行っている家庭が目立ちます。もう4年も前の話になってしまいますが、ソロ村(ココナッツがたくさん育つことで有名な土地)に住む当時のAFMETスタッフ、アウレリアさんのお宅に泊まった事がありました。そこで出される料理は全てココナッツオイルを使って調理されており、美味しさに感動した事を覚えています。

どうしてもっと売り出さないのか不思議だったのですが、その理由はココナッツオイルを生成する方法にありました。ココナッツオイルを作っている家庭は、機械を利用しているわけではなく、昔からの生成方法を維持しており、体力的に辛く、たくさんの量を一度に生産出来ないのです。

2015年4月に、ココナッツオイル作りをしている家庭を対象(ラウテン県ロスパロス準郡ホメ村)として独自に行ったアンケートでは、一週間のうちに1家庭が生産出来るココナッツオイルの量は20～30Lでした。この量は、家庭で生産したココナッツオイルを家庭内もしくは集落内で消費するだけで、他地域に売り出す事は難しいという事が判明しました。

グループの女性たちに、器具を効果的に使用した現代的なココナッツオイル生産方法を指導し、バージンココナッツオ

イル、ココナッツオイルを地元の製品として他地域に広げれば、女性の自立を支援する事が可能であると考え、このプログラムをかたちにし、JOMASに申請する運びとなりました。

ココナッツオイルを他地域にも広めるためには、やはり、質の良いものをつくらなければなりません。写真を見てもらうとわかるとおり、家の外でココナッツオイルを生成している家庭が多いです。犬、鶏などの家畜がココナッツを食べている可能性、怪我をした子どもが母親を手伝い、ココナッツに触れている可能性もあります。そのため、JOMASからの支援で品質管理トレーニングをグループの女性たちに受けてもらうと同時に、生成場所となる工房を建設する事になりました。



子どもも手伝ってココナッツを絞ります

より良い質を求めると、子ども達が母親を手伝うことが難しくなると、だんだんと家族の距離ができたりして、こんな写真も撮れなくなってしまうのではないかと考えてしまうことがあります。女性の自立、人々の収入向上。もちろん大事なことです。今ティモールにある素晴らしいもの、例えばそれは子どもが母親を手伝うことだったり、家族みんなが協力して一つのものを完成させることだったり…を無くさないように、今ある良いものを維持しつつ、プログラムの目標を達成できるようにしたいと思っています。

プログラムの目標は以下の5点です。

1. グループメンバーが効果的かつ安定的にオイルが生産できるようになる。
2. 他村の住民からココナッツを仕入れることにより、他村の収入向上につなげる
3. グループメンバー自身が製品を管理できるようになる。
4. グループメンバーが安定した収入を得られるようになる。
5. 広く地域住民がバージンココナッツオイルを入手しやすくなり、栄養失調児の減少などにつなげることができるようになる。

二つのプログラムを同時に進行させるのはとっても大変ですが、楽しみながら、そして学びながら、振り返りもしながら進めていこうと思います。